

【委員会における議論のポイント】

今回の格付け結果は、B評価が5名、C評価が1名と、概ね高い評価がなされた。

委員構成の専門性、事実認定の正確性、原因分析の深度、不祥事の本質への接近性、再発防止提言の説得力、調査報告書の社会的意義などについて、全委員が高い評価をしている。

もっとも、経営者に焦点を当てたガバナンスの問題、経営判断の問題、内部統制システムの有効性の問題については、全委員が踏み込み不足という評価をした。

また、C評価をした委員は、eK ワゴン/eK スペースに関する燃費問題の原因分析において、開発・製造が、日産自動車株式会社との間の共同プロジェクトとして、両社が出資する株式会社NMKVの統括のもと行われてきたことが勘案されていない点を問題視している。

以上